

NINJALコロキウム (2016.6.7)

『内の関係』と『外の関係』の名詞修飾節  
の通言語的バリエーション:  
クメール語・日本語・英語を中心に

堀江薫, ハイタリー  
名古屋大学

horieling@gmail.com



# 1. はじめに

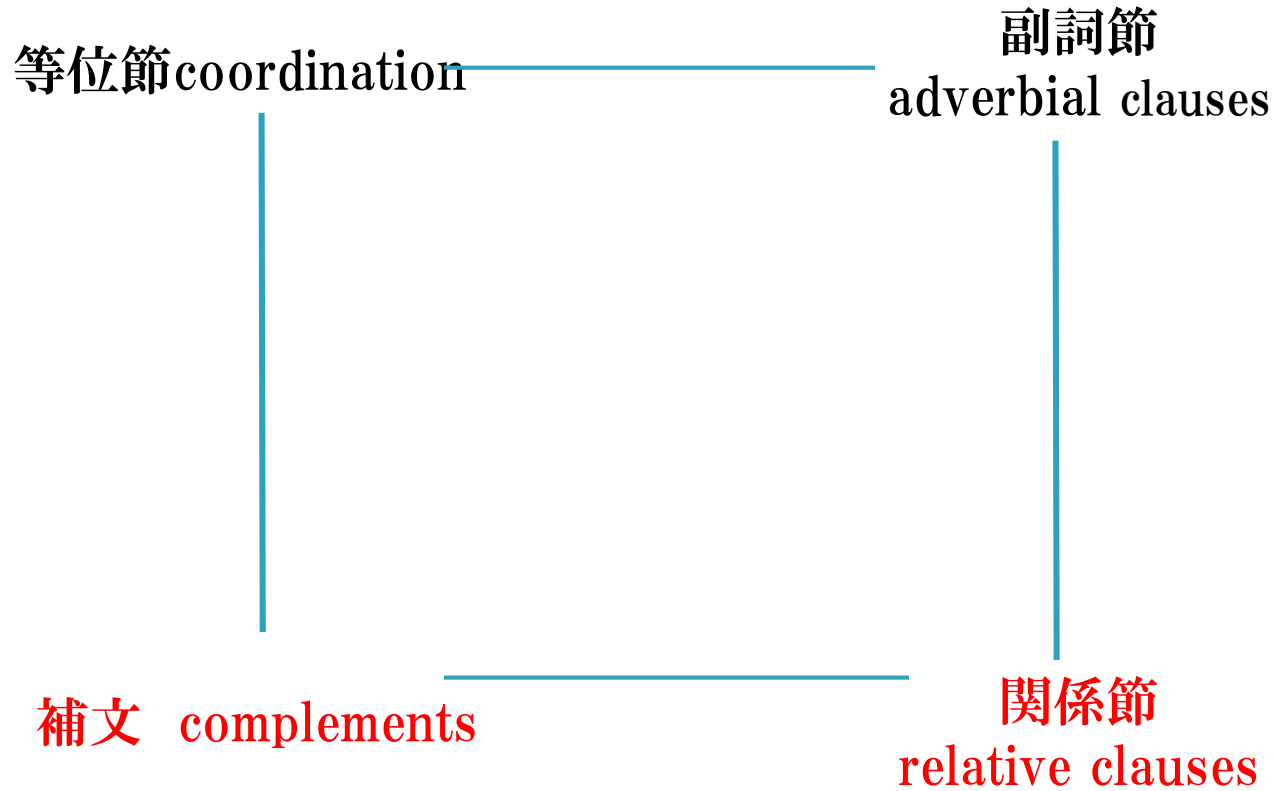


図1 言語類型論における  
複文の4類型

# 4つの複文タイプの事例：英語

- ▶ 「関係節(relative clauses)」「補文(complements)」  
「副詞節(adverbial clauses)」「等位節(coordination)」

(1)(a) The news [*which* surprised everyone] was Nixon's resignation. (関係節)

(b) The news [*that* Nixon resigned] surprised everyone. (補文)

(c) [*When* Nixon resigned], everyone was surprised. (副詞節)

(d) [Nixon resigned] *and* [everyone was surprised]. (等位節)

# Croft (2001) による複文タイプ間の連続性

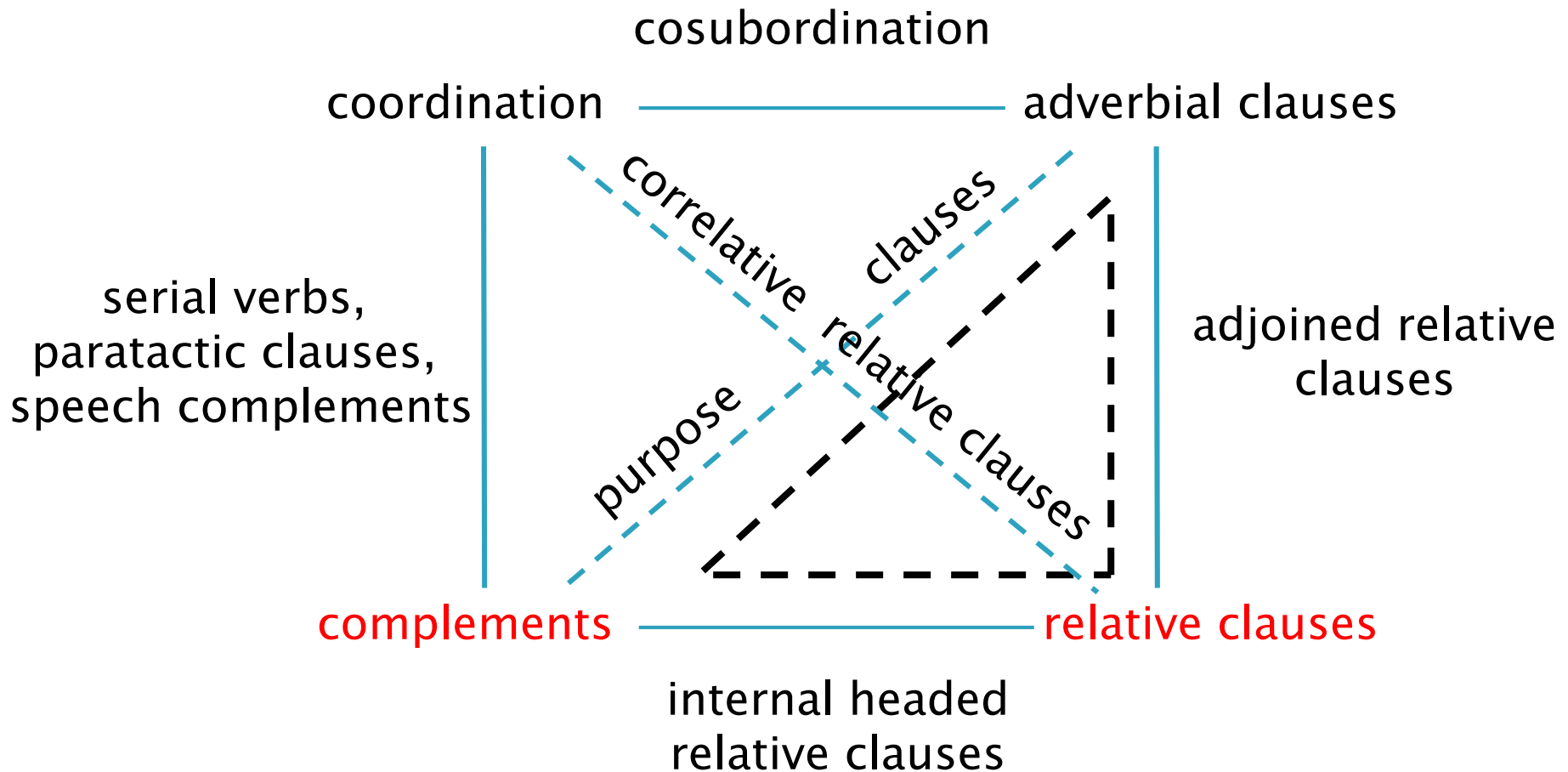


図2. The continuum of complex sentence types (Croft 2001: 322)

▶ 日本語学と言語類型論における「複文」:

複文の「類型化」(カテゴリー化)の相違

連体修飾節  $\approx$  関係節・補文

# 「連体複文構文」 (益岡2009)

- ▶ 「連体複文構文」
- ▶ 従属節（「連体節」(adnominal clause)）と主節が連体節の被修飾名詞（主名詞）を介して間接的に関係づけられる」構造：**関係節・補文と対応**

# 連体複文構文のタイプ分け

「関係節」タイプ(=「内の関係」)

(2)(a) [明らかにされた] 事実

「補文」タイプ(=「外の関係」)

(b) [廊下を曲がった] 最初の部屋  
(相対補充タイプ)

(c) [広島に原爆が投下された](という) 事実  
(内容補充タイプ)

# 「関係節」の類型論研究のパラダイムシフト

寺村秀夫氏の「連体修飾節」の研究(寺村  
1992) (**12月の研究会のテーマ**)



ヨーロッパ型の「関係節」とは異なるアジア型の  
「帰属節 (attributive clause)」の類型論的研究へと展開 (Matsumoto, Comrie, and Sells,  
forthcoming)



# 本発表の目的：

名詞修飾節の「内の関係」「外  
の関係」（特に後者）の通言語  
的バリエーションに関してク  
メール語のデータを提示し考察  
を進める（Comrie and Horie  
1995の観察を補完・発展させ  
る）。

## 2. Comrie and Horie (1995)の観察

- ▶ 英語:「補文」(動詞補文・名詞補文)と「関係節」を峻別
- ▶ 日本語:「名詞補文」「関係節」を「名詞修飾節」として統合、これと「動詞補文」(の一部)を区別
- ▶ クメール語:「関係節」「名詞補文」対「名詞補文」「動詞補文」

# 英語:補文(名詞・動詞補文)/関係節

## ▶ 関係節(「内の関係」)

(1)(a) The news [*which* surprised everyone] was Nixon's resignation.

\*\*\*\*\*

## 名詞補文(「外の関係」)

(b) The news [*that* Nixon resigned] surprised everyone.

## 動詞補文:

(c) I learned [*that* Nixon resigned].

# 日本語：名詞修飾節（関係節・補文）/ 動詞補文

「関係節」（内の関係）

(2) (a) [明らかにされた] 事実

「名詞補文」（相対補充タイプ）（外の関係）

(b) [廊下を曲がった] 最初の部屋

「名詞補文」（内容補充タイプ）（外の関係）

(c) [広島に原爆が投下された] (という) 事実

\*\*\*\*\*

「動詞補文」:

(d) そのとき [広島に原爆が投下された] と初めて知った。

# クメール語（オーストロアジア語族， モンクメール語派）

- ▶ 形態論的特徴：孤立型言語
- ▶ 基本語順：SVO

tidaa cləŋ pləw.

人名 渡る 通り

「Tidaaは通りを渡る/渡った。」

- 関係節の位置：

主名詞[

]後置関係節

# クメール語：関係節・名詞補文/名詞補文・動詞補文(名詞補文が2種類に分岐)

関係節：*dael*

(3) (a) siəwphiu [*dael* kouu-səs baan tiñ]  
book student PAST buy  
'the book which the student bought'

名詞補文：*dael*

(b) kamnit [*dael* tidaa baan səmlap bopphaa]  
idea Tidaa PAST kill Bophaa  
'the idea that Tidaa killed Bophaa'

\* \* \* \* \*

名詞補文：*thaa*

(c) damnəŋ [*thaa* qəwpuk baan slap]  
idea father PAST die  
'the news that father had died'

動詞補文：

(d) bophaa dəŋ [*thaa* tidaa claŋ pləw].  
Bophaa know Tidaa cross street  
'Bophaa knows that Tidaa crossed the street.'

# 問題点:「名詞補文」という概念では捉えられない構造もある

(4)

(a) samleɪŋ [*dael* koun-səs kampuŋ-tae viəy tviə]

sound                      student    PROG                      hit    door

‘the sound of the student knocking the door’

[誰かがドアをノックする]音

Comrie and Horie (1995)の暫定的結論：  
クメール語の「関係節」「補文」の分布：**英語タイプ**  
**とも日本語タイプとも異なる**

標識	関係節	名詞補文	動詞補文	関係節でも名詞補文でも ない名詞修飾節
dael	○	○	—	○
thaa	—	○	○	—



# 未解決の問題：クメール語の *dael*, *thaa* による「名詞補文」の境界線はどこか？

(4)(b) kamnit [*dael* tidaa baan səmlap bopphaa] (名詞補文)  
idea      Tidaa PAST kill      Bophaa

‘the idea that Tidaa killed Bophaa’

(c) riəŋ [*dael* ckae kham tidaa] (名詞補文)  
story      dog bite Tidaa

‘the story that the dog had bitten Tidaa’

(d) haet [*dael* tidaa viəy bopphaa] (名詞補文)  
reason      Tidaa beat Bophaa

‘the reason why Tidaa beats Bophaa’

### 3.クメール語の「外の関係」の名詞修飾節再考

- ▶ より多くのデータの収集
- ▶ 日本語の名詞修飾節の中で用いられていた概念のクメール語への応用・再分析
- ▶ 「外の関係」（「補文」タイプ）における「内容的補充」vs. 「相対的補充」の区別

## 3.1 クメール語の *thaa* の機能領域

- ▶ *thaa* ‘say’ < complementizer (Heine and Kuteva 2002)
- ▶ 「言う」という動詞が文法化した形式（通言語的にアジア言語・アフリカ言語で広く観察される現象; Lord 1993) cf. 日本語「という」, 韓国語 *la-ko-ha(nu)n*
- ▶ いわゆる「補文」というのにふさわしい形式

# *thaa*(「言う」)の本動詞としての用法

(5)

(a) *nyum ba:n-thaa koat jea neak doh-sray*  
私 言った 彼 to be 人 解決する  
「私は彼が解決する人であると言った。」

(b) *kaot thaa tov*  
彼 言った 行く  
「彼は行くと言った。」

(c) *ke: tha: mec ?*  
他人 言う どう  
「他人は何って言った？」

# *thaa* の「動詞補文」としての用法

(3)(d) bophaa dən [ *thaa* tidaa cləŋ pləw.

Bophaa know Tidaa cross street

‘Bophaa knows *that* Tidaa crossed the street.’

# *thaa*の「名詞補文」用法:「発話性」名詞と共起することが多い

(6) nyum ba:n-lu: domneng [*thaa* koat  
私 聞いた ニュース COMP 彼  
kompoung rousnov protesh jopun].  
ている 住む 国 日本

「私は[彼が日本に住んでいるという]ニュースを聞いた。」

# 発話性名詞：「噂」

(7) kro-soung    sokha:pibal    bak-de-saet

省

厚生

断った

peak-corcam-aram [*thaa*            kloun

噂

COMP

自身

jong-dok-ho:t- munti:pet ].

取り消したい    病院

「厚生省は[自体が病院(の認可)を取り消したいという]噂を否定した。」

# 発話性名詞：「知らせ」

(8) dɔmnəŋ [thaa puokke: nəŋ-dɔmrəw ʔaɔi tvə:  
知らせ COMP 彼ら 必要 あげる する  
teh mok-cumniəŋ -vècciəci:véək]  
テスト 職業

「彼ら(労働者)が職業テストを受ける必要があるという  
通知」(通知の内容は引用)



# *thaa* 「発話性」の主名詞と共起

- ▶ 起源である動詞の語彙的な意味から発話性  
の主名詞との共起は自然
- ▶ もう一つの「名詞補文」マーカ―*dael*との区別  
を明らかにするため主名詞の意味・機能分類  
が必要(寺村秀夫の分類)

# 寺村の「内容補充」(寺村1992: 199)

- ▶ 修飾部が主名詞の内容を表している
- ▶ 主名詞に「は」をつけて「主題—解説」文に展開可  
(例:その話は...ものだ。)

(9)(a)[女房の幽霊が三年目にあらわれる]話

(b)[清少納言と紫式部が会った]事実

(c)[それが正しいという]意見

(d)[さんまを焼く]匂い

(e)[宮女たちが布を洗っていた]姿

(f)[誰かが階段を降りて来る]音

# 「相対補充」(寺村1992:199-200)

- ▶ 主名詞に「は」をつけて「主題—解説」文に展開不可  
(例:原因は火事が広がったことだ。)
- 「相対的關係」を表す (例:前⇔後, 左⇔右, 前日⇔(当日)⇔翌日, 原因⇔結果, 罪⇔罰, 隣り⇔隣り)

(10)(a)[火事が広がった]原因

(b)[キング師が暗殺された]結果...

(c)[先頭集団を走っている]前を...

(d)これも[美栄子を殺した]罰といえそうだが...

# *thaa* の「機能領域」と主要な機能

- ▶ 「発話性」「思考性」の主名詞と共起し「内容補充」の名詞修飾節を形成
- ▶ 「引用」が中核的な機能
- ▶ 修飾節の表す「命題」の事実性は前提としない (non-factive)
- ▶ 陳述度の高い命題と共起

# 「思考性」名詞：*thaa*が可，*dael*が不可の場合

(11) nyum mean komnit [ { \**dael* / *thaa* } ]

私 ある 意見

konkhemng koutae-rien pheasa: ongleh].

子供 勉強したほうが良い 言語 英語]

「私は[子供が英語を勉強したほうが良いという]意見である。」(モダリティ形式が含まれ、陳述度が高い)

# 「コト」名詞：*thaa*が用いられる場合

(12) miən kdəi-srɔ:mai [*thaa* nən-cih koŋ  
ある 夢 COMP 乗る 自転車  
comven piphoplo:k ]  
回る 世界中

「[サイクリングで世界中を回るという]夢がある。」  
(話者本人が語る夢の内容)

# 「感情」名詞：*thaa*が用いられる場合

(13)ʔ:na:pyiəbal miən ka:ba:rom [thaa  
親たち ある 心配 COMP

ko:nkhme:ŋ ʔa:c chlo:ŋ viruh nuh ]  
子供 できる 感染する ウイルス その」

「親たちは[子供がウイルスに感染されるかもしれないと  
いう]心配があります。」(親が心配している内容)

# 「相対名詞」：*thaa* が用いられる場合

(14) lə:k            haetphal [thaa        tvə:ʔoai  
         取り上げる 原因        COMP        させる  
         pahpœl    dol    sondaptnoəp    sa:tiəna ]  
         影響        に        秩序            公共 ]

「[公共の秩序に影響を与えるという]原因を主張した。」

(**内容補充の解釈のみ**:「公共の秩序に影響を与えていること」自体が(何かの)原因である)



# *thaa* の機能領域

- ▶ 共起する中核は「発話性」「思考性」の主名詞(表1を参照)
- ▶ これ以外に「コト」名詞や「相対性」名詞と共起することもある。
- ▶ しかし、相対性名詞と共起する場合も(ほぼ例外なく)「内容補充」の機能しか有しない。
- ▶ 「引用」が中核的な機能
- ▶ 修飾節の表す「命題」の事実性は前提としない(non-factive)
- ▶ 陳述度の高い命題と共起

表1.寺村の主名詞の機能分類（金1989より）

修飾節	名詞群	主名詞の具体例	トイウ介入
内容補充	I. 発話性	言葉・手紙・返事・電報・電話・申し出・噂・不平・美玲・誘い・依頼	義務
	II. 思考性	意見・期待・思い・考え・想像・気持・決心・意志・信念	義務
	III. 「コト」	話・事実・事・事件・騒ぎ・記憶・夢・過程・くだり・作業・動作・行為・怖（「コト」性）	任意
	IV. 「コト」	癖・習慣・風習・運命・身の上・過去・経歴・商売・作業・仕事・技術・方法・準備・目的・資格・必要	任意
	V. 知覚性	音・匂い・味・様子・姿・絵・写真・場面・形・感じ	不可
相対補充	VI. 相対性	上・下・右・左・中・外・前・後・原因・理由・結果・一方・一面・ほか・半面・すき・途中・帰り・横・名残・最初・当日・前日・相手・・・	不可
	VII.	悲しみ・淋しさ・落着かなさ・やさしさ・焦り・不安・怒り	不可

## 3.2 クメール語の *dael* の機能領域

- ▶ *dael* は語彙的意味としてleftover(残り物, 余り物)という名詞としての意味を有する

(15) nyum    peak    aov    *dael*  
私        着る    シャツ    中古(leftover)

bong-srey robos nyum

姉            の        私

「私は(私の)姉のお古のシャツを着る。」

# *dael* の「関係節」用法（「内の関係」）

- (16) *koat ba:n -tinh sievphoa [dael nyum kompoung a:n]*  
彼 買った 本 私 ~ている 読む  
「彼は[私が読んでいる]本を買った。」

*thaa*は使用不可

## *dael* の「名詞補文」用法（「外の関係」）

*thaa* と相補的な分布を見せる場合と、競合する場合がある。

*thaa*よりも広い範囲の主名詞と共起可能

# 発話性名詞と *dael*

(17)

A: nyum ba:n-lu: thaa kro-soung sokha:pibal

私 聞いた 省 厚生

ba:n-bak-de-saet peak-corcam-aram

断った 噂

「私は厚生省が噂を否定したと聞いた。」

B: peak-corcam-aram avey ?

噂 何 「何の噂？」

A: peak-corcam-aram [ { *dael*/\**thaa* }

噂

kro-soung sokha:pibal cong-dok-ho:t munti:pet ].

取り消したい 病院

「厚生省が病院(の認可)を取り消したい噂。」

「発話性名詞」と *dael*:

噂の内容は他者の発言の引用ではなく、話者自身が自分の得た情報を基に噂の内容を(再)構成して提示している。

# *dael* の名詞修飾節

- ▶ 内容補充の場合、**直接的な引用ではない**
- ▶ 話者が噂の内容を自分で直接聞いたものとして前提とし、主名詞の範囲を限定するのに用いる
- ▶ **相対補充の解釈も可能である。** (*thaa*は相対補充の解釈は不可)



# コト名詞：（「目的」）：*dael*のみ可

(18) nyum    min-yol                  ompii                  bongnong  
私                  理解できない    について    目的  
[ { dael/ \*thaa } koat jong-tov proteh jopun ].  
COMP                  彼    行きたい    国                  日本 ]

(a)「内容補充」：「私は彼が日本に行きたい目的を理解できない。」（私は彼の目的が「日本に行きたいこと」であることを直接聞いて知っている。）

(b)「相対補充」：「私は彼が日本に行きたい目的を理解できない。」（私は彼の目的が「秋葉原でメイド喫茶を体験する」であることを直接聞いて知っている。）

# コト名詞：（「事件」）と叙実性(factivity)

(19) ba:n ptsai haetka: [dael ʔutɔəmpɛhcéək  
~た 放送する 事件 COMP ヘリコプター  
pi: kruəŋ pahtonkecknea knoŋ komlonpe:l tho:t  
2 台 衝突する 中 時 撮影  
kamvithii tu:tuoh]。  
プログラム 番組

「[テレビ番組の撮影中に2台のヘリコプターが衝突した]事件を放送した。」(話者がdael節の命題が事実であることを前提)

# 知覚性名詞：*dael* のみ (Comrie and Horie 1995)

(20) somleng [ {dael/\*thaa} norna: -mnak  
音 COMP 誰か

kompoung kous tvea]  
~ている たたく ドア

「[誰かがドアを叩いている]音」

(21) rous-jeat [ {dael/\*thaa} koat ba:n-tver  
味 COM 彼 作った

somlor-ka:ri ]

カレー

「[彼がカレーを作った]味」

# 知覚性名詞：*dael* のみ

(22) ro:pphiəp [dael puokke: cho: nəw vihiə

写真            COMP   彼ら   立つ   で   神社

me:ci ]

明治

「[明治神宮の前で立っている]写真」

# 相対補充の解釈: *dael*

(23) co:ncanléəkkhena:            ba:n-prap            pi:  
         チョンチャンレケナさん 教えた            について  
mu:lhaet [dael    niəŋ    mən    ʔa:c    trəəm    ruohnəw  
原因        COMP 彼女 ない できる 耐える 暮らす  
ciəmuoi pdəi ]  
と        夫

「チョンチャンレケナさんは[彼女が夫と暮らすことに耐えない]原因を教えた。」(原因は例えば夫が嫉妬深いこと)

# 相対補充の解釈：*dael*

(24) ko:lbomno:ŋ [dael lo:k coŋ buoh]  
目的 COMP 彼 ~たい 出家

ku: lo:k coŋ to:psno:ŋ so:ŋkun  
be動詞 彼 ~たい 返す 恩

néəkmiankun [dael ba:n-cəncəm-bəibac ro:blo:k].  
恩人 RM 育てた 自分

「[彼が出家したい]目的は[彼が育てくれた]恩人に恩返しをしたからだ。」(2つ目の*dael*節は関係節)

# 競合する場合:「コト」名詞roeng (「話」)

(25) nyum ba:n-deong roeng [{dael /thaa} koat  
私 知っている 話 COMP 彼  
jong-tov proteh jopun].  
行きたい 国 日本

*dael* 「内容補充」「日本に行きたい話を知っている。」

または

「**相対補充**」「**日本に行きたいことに関する話を知っている。**」

*thaa* 「内容補充」のみ「日本に行きたいという話を知っている。」

# 競合する場合:叙実 vs.非叙実

(26)domnəŋ [ {*dael/thaa* } tola:ka: khaet svairiəŋ  
知らせ COMP 裁判所 州 スワイレアン  
ba:n somraccət lə:kle:ŋ to:h  
~た 決定する 取り下げる 罪  
lo:k- cho:kbondut ]

チュックボンデットさん

「[スワイレアン州の裁判所がチュックボンデットさんの罪を取り下げることを決定した]{ $\phi$  /という}知らせ」

**dael:** 話者が通知の内容を事実として認識

**thaa:** 話者は通知の内容を伝聞として伝達



# *dael* の機能領域

- ▶ 寺村1981の表を援用して示すと、共起する中核は「コト」「知覚性」「相対性」の主名詞
- ▶ これ以外に「発話性」名詞や「思考性」名詞と共起することもある。
- ▶ 「内容補充」の機能を果たす場合：話者が命題を事実として捉えている含み(factive)

「相対補充」にも用いられる

表2. *dael*と共起する主名詞の範囲

修飾節	名詞群	主名詞の具体例	トイウ介入
内容補充	I. 発話性	言葉・手紙・返事・電報・電話・申し出・噂・不平・美玲・誘い・依頼	義務
	II. 思考性	意見・期待・思い・考え・想像・気持・決心・意志・信念	義務
	III. 「コト」	話・事実・事・事件・騒ぎ・記憶・夢・過程・くだり・作業・動作・行為・怖（「コト」性）	任意
	IV. 「コト」	癖・習慣・風習・運命・身の上・過去・経歴・商売・作業・仕事・技術・方法・準備・目的・資格・必要	任意
	V. 知覚性	音・匂い・味・様子・姿・絵・写真・場面・形・感じ	不可
相対補充	VI. 相対性	上・下・右・左・中・外・前・後・原因・理由・結果・一方・一面・ほか・半面・すき・途中・帰り・横・名残・最初・当日・前日・相手・・・	不可
	VII.	悲しみ・淋しさ・落着かなさ・やさしさ・焦り・不安・怒り	不可

表3. *thaa*と共起する主名詞の範囲(再掲)

修飾節	名詞群	主名詞の具体例	トイウ介入
内容補充	I. 発話性	言葉・手紙・返事・電報・電話・申し出・噂・不平・美玲・誘い・依頼	義務
	II. 思考性	意見・期待・思い・考え・想像・気持・決心・意志・信念	義務
	III. 「コト」	話・事実・事・事件・騒ぎ・記憶・夢・過程・くだり・作業・動作・行為・怖（「コト」性）	任意
	IV. 「コト」	癖・習慣・風習・運命・身の上・過去・経歴・商売・作業・仕事・技術・方法・準備・目的・資格・必要	任意
	V. 知覚性	音・匂い・味・様子・姿・絵・写真・場面・形・感じ	不可
相対補充	VI. 相対性	上・下・右・左・中・外・前・後・原因・理由・結果・一方・一面・ほか・半面・すき・途中・帰り・横・名残・最初・当日・前日・相手・・・	不可
	VII.	悲しみ・淋しさ・落着かなさ・やさしさ・焦り・不安・怒り	不可

# まとめ(暫定的)

- ▶ Comrie and Horie (1995)の観察に基づき、クメール語の *thaa* と *dael* が「外の関係」の名詞補文を構成する場合に両者の区別がどのようなものであるかを新たなデータを基に考察

主名詞の意味に着目し、「内容補充」「相対補充」の概念を援用して *thaa* と *dael* の機能領域を説明

# *dael* の機能領域

- ▶ 寺村1981の表を援用して示すと、共起する中核は「コト」「知覚性」「相対性」の主名詞
- ▶ これ以外に「発話性」名詞や「思考性」名詞と共起することもある。
- ▶ 「内容補充」の機能を果たす場合：話者が命題を事実として捉えている含み(factive)

「相対補充」にも用いられる

# *dael* の機能領域

- ▶ 共起する中核は「コト」「知覚性」「相対性」の主名詞
- ▶ これ以外に「発話性」名詞や「思考性」名詞と共起することもある。
- ▶ 「内容補充」の機能を果たす場合：話者が命題を事実として捉えている含みを有する

「相対補充」にも用いられる

# *thaa* の機能領域

- ▶ 共起する中核は「発話性」「思考性」の主名詞(表1を参照)
- ▶ これ以外に「コト」名詞や「相対性」名詞と共起することもある。
- ▶ しかし、相対性名詞と共起する場合も(ほぼ例外なく)「内容補充」の機能しか有しない。
- ▶ 「引用」が中核的な機能
- ▶ 修飾節の表す「命題」の事実性は前提としない(non-factive)
- ▶ 陳述度の高い命題と共起

# 謝辞

- ▶ **本研究は以下の科学研究費の支援を一部受けております。**
- ▶ **科学研究費(基盤研究(C))：課題番号16K02624「中断節の語用論的機能に関する通言語的対照研究：連体・準体節と連用節の対比を中心に」  
(代表：堀江薫)**



# 参考文献(ごく一部の引用文献のみ)

Comrie, Bernard and Kaoru Horie (1995) “Complement Clauses versus Relative Clauses: Some Khmer Evidence,” *Discourse Grammar and Typology. Papers in Honor of John W.M. Verhaar*, ed. by Werner Abraham, Talmy Givón, and Sandra A. Thompson, 65-7. John Benjamins, Amsterdam & Philadelphia.

Heine, Bernd, and Tania Kuteva. 2002. *World Lexicon of Grammaticalization*. Cambridge: Cambridge University Press.

金銀淑(1989)「連体修飾構造における「トイウ」の意味機能」(『国語学研究』29 東北大学)

Matsumoto, Yoshiko, Bernard Comrie, and Peter Sells (eds.), forthcoming. *Noun-modifying Clause Constructions in Languages of Eurasia: Reshaping Theoretical and Geographical Boundaries*. John Benjamins, Amsterdam & Philadelphia.

益岡隆志(2009)「連体節表現の構文と意味」『言語』38巻1号.

寺村秀夫(1992)「連体修飾節のシンタクスと意味」『寺村秀夫論文集—日本語文法編—』, 157-320. くろしお出版, 東京.